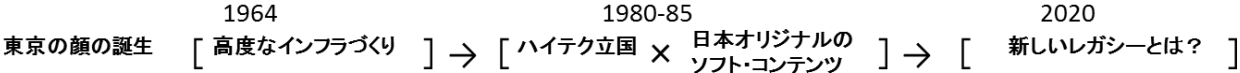


取扱注意

試案作製：鈴木浩二 総合プロデューサー  
顧問：石原信雄 元官房副長官  
Revised in Jan. 2017 Nov. 2016

「東京プラザ(仮称)」における東京の顔づくりに向けて

—— 新国立競技場、選手村等へ導入。会期後の小時代形成へのコンセプトとして、  
東京都を事業主体、財団化を検討。



1964 東京五輪

▽  
1964年 東京五輪以降、日本を世界へ押し上げたハイテク日本、生活・文化発信は、  
1980～85年に起こった小時代。東京から世界の顔となったレガシー内容。

※ ○印は、鈴木が計画・実施。

1980-85

- Y.M.O. (人-都市-機械 コンセプト) → アフターテクノ (人-感性-都市-機械-環境)コンセプト (1979)
  - ソニー・ウォークマン → CD → 世界初のコンピューター制御 (1982) (1978) レーザーディスク ○「インタラクティブ・ゲーム・ディスク」 (1982) 日経大賞 受賞(鈴木) ○「ロールプレイングゲーム・オルガノン」
  - 新宿スタジオアルタ 大型スクリーン (1980) 映像スタジオ付き店舗 → “笑っていいとも”(街の拠点化と番組発信)
  - ▽
  - ソニー・ジャンボトロン (筑波万博内) (1985)
  - 無印良品 (無印工房→店舗) → 新しい消費世界 (1979) サービス事業の国際化(カード事業、物販×サービス事業)
  - 六本木WAVE スタジオ付き店舗(インキュベート、レーヴェル提供) (1983) ミニFM局 → ○ J-WAVE (1987)
  - 世界初のメカトロ未来店舗 世界中からの賞を獲得 (1982) 日本では日経大賞 受賞/企画賞(鈴木)
  - 有楽町マリオン 国際都市・東京からの → 街拠点のハイテク化・国際化 (1984) 生活・文化発信
- 新しい街のかたち ○「インテリジェント・シティ」(1988 府中・日本製鋼所)  
○「KSP」(1986 かながわサイエンスパーク)
- 「ソヴィエト・ペレストロイカ」への街開発輸出 (1986) 東京・日本が誇る小時代の海外輸出 モスクワでの最初の日ソ合弁事業

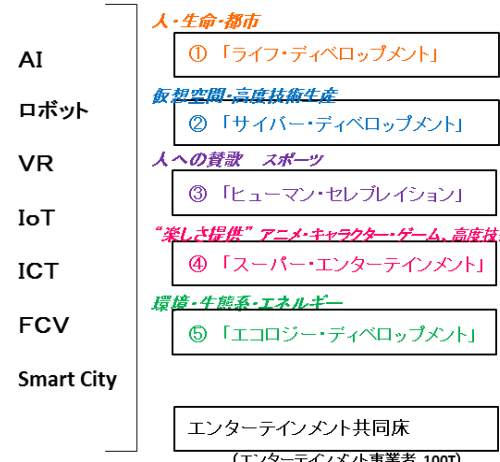
直近

- 世界初の“FCV等、水素社会と街開発” (2014-トヨタ/日野自動車本社工場跡地開発)

東京の新しい顔

2020 東京五輪に向けて — 新しい小時代づくり  
技術革新 × ソフト・コンテンツ

物販・サービス・エンターテインメント事業床



エンターテインメント共同床 (エンターテインメント事業者 100T)

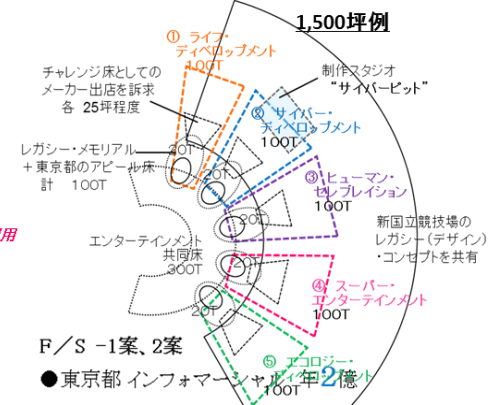
- イ) ショウ・ビジネス
- ロ) エデュテインメント事業
- ハ) ロケーションビジネス

F/S -1案

●車販売 年商97億  
新車販売 230台/月×300万= 6.9億/月  
他、サービス入庫、部品・サービス販売・取次

F/S -2案

●車販売 年商36億  
新車販売 100台/月×300万= 3億/月



F/S -1案、2案

●東京都 インフォーマーシャル 年2億 (100T)

F/S -1案

●エンターテインメント事業 年12億 (300T×400万/年坪 (物販含む))

F/S -2案

●エンターテインメント事業 年3.6億 (300T×120万/年坪 (物販含まず))

F/S -1案

●物販・サービス事業 年商20億 (500T×400万/年坪)

F/S -2案

●物販・サービス事業 年商15億 (500T×300万/年坪)